

NPO 法人 科学技術者フォーラム 平成 31 年 4 月度見学会報告
「東京湾見学 報告」

1. 東京港見学：

- 1) 見学月日時：平成 31 年 4 月 11 日 10 時から 12 時
- 2) 見学場所；東京港 竹芝小型船ターミナル
- 3) 参加人員：51 名

2. 東京港について

東京港は昔から「江戸湊」とよばれ、全国から生活物資が運ばれる海運の拠点であったが、現在でも首都圏最大の海上拠点として、特に日本最大のコンテナによる物流拠点、日本を代表する国際貿易港として物流の拠点となっている。

さらには伊豆・八丈島・小笠原諸島への定期船、外国観光客船（晴海ふ頭）などのふ頭がある

2. 見学のために乗船した東京丸について

東京都港湾局所有：竣工：昭和 58 年、全長：31.89m、総トン数：197,00 トン

4. 視察船東京丸による船からの説明順序（見学時間 1 時間 30 分）

竹芝小型船ターミナル（出発）→日の出ふ頭（右側）→芝浦ふ頭（右側）→レインボーブリッジ（上）→品川ふ頭（右）→東京港トンネル（下：海底トンネル）→大井コンテナふ頭（右側）→防波堤（両サイド）→臨海トンネル（下：海底トンネル）→新コンテナふ頭（左側）→東京国際空港（羽田空港）（右遠方）→新海面処分場 G ブロック（左側）→東京湾アクアライン（右遠方）および木更津（右遠方）→東京ゲートブリッジおよびスカイツリー（左側）→富士山（左前方）→幕張メッセ（右遠方）→ディズニーランド（右遠方）→中央防波堤その 2（ごみの山）（左側）→若洲海浜公園（ごみの山）（右側）→東京ゲートブリッジ（上）→海の森用水路（左側）→海の森（左側）→原木貯木場（右側）→東京ビッグサイト（右側）→フェリー船ふ頭（右側）→海の森（左側）→海底トンネル（海底工事中）→フェリーふ頭（右側）→お台場ライナーふ頭（右側）→PCB の処理場など廃棄物処理場（左側）→第二航路海底トンネル（海底）→ばら物ふ頭（左側）→青海コンテナふ頭（右側）→青海客船ターミナル（建設中）（右側）→東京港トンネル（再度）→潮風公園（右側）→お台場海浜公園（右側）→（再度レインボーブリッジ）→豊洲新市場（右側）→晴海ふ頭（右側）→月島ふ頭→竹芝ふ頭（右側）→竹芝小型船ターミナル（着）

5. 東京港の主な設備の概要（見学順）

① 日の出ふ頭

大きい白い船でシンフォニー号というクルージング船が停泊。船の裏側に人が乗り居りする「日の出ふ頭」がある。その左に三角形の屋根が 12 個あり、そこは荷物を船から下ろしたり積んだりする荷物の仮置き場がある。この建物を上屋と云う。その右側には民間の倉庫がある。ここの主な荷物は原塩である。

② 芝浦ふ頭

次には「芝浦ふ頭」がある。ここは巻紙、板紙やセメントが国内から入ってくる。建物に青い線下あるがこの下が上屋である。ここの岸壁は耐震化して災害が起こっても壊れない構造になっている。大震災の時の救援活動ができる重要な拠点となっている。

③ 品川ふ頭

岸壁に白と黒の大きな船が停泊している船は Ro/Ro 船という船である。船の後ろから橋が出ていて、ここから自動車や車がついた大きなコンテナ（シャーシーという）を後ろの部分からトラックの運転部分（ヘッドという）で入れる。国内貨物専用である。

これか左の方に、昭和42年に初めてできたコンテナふ頭である。韓国や東南アジアへの近海貨物を取り扱っている。

④ 大井コンテナふ頭

日本の最大級のコンテナふ頭で、全長 2,354m、8万～10万トン級の船が7隻同時に停泊できる。国内および外国へのコンテナを取り扱っている。

コンテナの積み下ろしをしているのが、ガントリークレーンと云い、20基ある。大きいもので50トンから普通30トンの荷物積み下ろししている。操縦しているのは、高さは45mの上から運転している。

21年連続日本一であるが、世界ではもっと大きいところがある。

バンザイした格好しているクレーンは穀類用のクレーンがである。大きな船会社の倉庫が並んでいる。コンテナは20フィートと40フィートの大きさのコンテナがあり、40フィートは観光バスと同じ大きさ。ガントリークレーンはレールを動く。船には一隻で1800個～8000個位船に積む。右の青いバンザイしたクレーンは穀類用のクレーンである。

21年連続で日本一で457万個ある。世界でのもっと大きなふ頭がある。

右横は大井水産物ふ頭の倉庫がある（エビ、タコなど）。さら右横の青い壁は野菜果物を取り扱うふ頭がある。さらにその横のバンザイしたクレーンは穀類（小麦）の輸入するふ頭。

⑤ 新コンテナふ頭（工事中）

ガントリークレーンは右に3基のクレーンと左に2基がある。左の3基は普通のガントリークレーンであるが、右2基は世界で初めての横に伸びるガントリークレーン。これは羽田空港があるため高さ制限がある。15万トン級のコンテナ船が入ることができるふ頭である。今まだ船会社が決まっていない今年の末頃から船が頃から入ってくる。

⑥ 新海面処分場埋立地 G ブロック（左側）

新しい埋め立て地である。面積は480ヘクタール、費用は4500億円で外壁は水面下450mまでの硬い地盤まで作るので建設費用が嵩む。ごみの最後の処分場である。

⑦ 中央防波堤埋立地（ごみの山）

以前は生ごみであったが今は焼却したごみと土とでサンドウィッチ工法で埋め立てる。ガス抜きパイプでガスを抜き、それを発電に使っている。

⑧ 若洲海浜公園（右側）

埋立地であり、緑の森が出来ている。ゴルフ場、サイクリング場、キャンプ、ヨット訓練場などがある。海の交通信号がある。

⑨ 海の森用水路（左側）

海の森の用水路はオリンピックのボートとカヌーの会場がある。

このほかオリンピックの設備がつけられる。風力発電2基ある。ゴミの山に森を作ろうとしてボランティア活動で木の苗を植えている。

⑩ フェリーふ頭（右側）

国内のフェリーふ頭があり、四国のフェリー船が停泊している。フェリー船の RoRo 船は貨物だけ、フェリー船は人も乗せることができる。

⑪ 海の森（右側）

山が 1200 万ヘクタールの山ができています。木をボランティア活動で植えて森を作ろうとしている。5 年くらいかかる。

⑫ お台場ライナーふ頭（右側）

中国や韓国へ金属くずを輸出している。

⑬ 大きな建物（左側）

PCB など処理している工場。その他びんかん、畳、布団などの処理

⑭ ばら物ふ頭

ほこりなどが立つので、ふ頭を別にしている。石炭、コークスなど、

⑮ 青海コンテナふ頭（右側）

青海コンテナふ頭で大井より新しい。1600m のふ頭である。ここもガントリークレーンを使っている。後方に大きな倉庫がある。青海流通センターがある。

⑯ 新客船ふ頭（建築中）（右側）

現在工事中の 430m の新しいふ頭ができる。22 万ト級の船が入れるふ頭ができる。オリンピックまでにできる。そのためゆりかもめの駅名が「青海」から「東京国際クルーズターミナル」に変更された。

⑰ お台場海浜公園（右側）

オリンピックのビーチバレー会場ができる。

⑱ 晴海ふ頭（右側）

今客船は晴ふ頭にきている。7 万トン位までのクルーズ船位しか入れない。15 万トン級はレインボーブリッジは通れない。そのために新しいふ頭をつくっている。

⑲ 月島ふ頭（右側）

ここの倉庫は冷凍冷蔵庫で殆ど国内の荷物。

⑳ 竹芝ふ頭

伊豆・小笠諸島航路やレストラン船の発着

6. 見学感想

昨日の悪天候が過ぎて快晴となり、風はあるものの絶好な見学日和であった。51 名という大勢の参加にもかかわらず新東京丸は視察用になっているので全員がゆっくりと見学できた。見学時間は 1 時間 30 分であったが、予想以上沢山の設備の多さに驚いた。そのためかあっという間に時間が過ぎたように感じた。

更なる物流拠点としての発展、オリンピックへ向けての大型客船の受け入れ、ごみ埋め立ての問題など大変に勉強になった見学会であった。

文責 矢崎文彦